

構成員からいただいた主なご意見

- ① がんゲノム医療提供体制の構築に向けた考え方
- 患者・国民を中心に関係者の意見が反映される仕組み
 - 質の高いがんゲノム医療を効率的に提供する仕組み

【ご意見】

- がん研究のオールジャパン体制を構築し、既存の治療法の提供だけでなく、新たな治療標的等を発見し、日本がこの分野で世界をリードしていく必要がある。
- 患者・国民がゲノム医療に主体的に参加する体制が必要ではないか。
- データ管理にあたっては、参加者からの同意の取り方、プライバシーの保護、セキュリティ担保等に関する検討が必要である。
- がん患者全体を考えると、手術適応の患者の再発診断等の開発も重要である。

② がんゲノム情報の集約機関と医療提供支援拠点

- データを集約・管理する機関の必要性和その役割
- がんゲノム医療の提供を支援する拠点医療機関の役割
- 現在の医療提供体制における新たな機能の位置づけ

【ご意見】

- 膨大な文献情報のうちゲノム変異と疾患との関連や治療効果等を集めた、がんゲノム医療用のデータベースを作る必要がある。
- 治験や臨床試験についてどのようなものがどこで行われているかの情報を一元的に集約し、患者も含めてアクセスできる体制が必要である。
- がんゲノム医療を全ての国民に提供するためには、データベースの構築や変異意義づけ（アノテーション）の提供など、がんゲノム医療提供の支援を行う拠点を整備する必要がある。
- データ量が多くなることが予想されるため、クラウドを利用する必要があるのではないかな。
- コンソーシアムには人工知能をそなえたクラウドシステムや、データ解析の計算機が必要である。
- クラウドのデータサーバーのセキュリティについて、完全なものはないが、米国のゲノム研究で民間クラウドを利用しているものがある。金融取引もクラウドに移行してきており、実用的なレベルで見れば十分なレベルに達してきていると考えられる。

③ 計画的な体制整備

- 質を確保した上で全国に展開する方策
- 産業界や患者負担を含めた自立運営の仕組み
- 革新的医薬品等の創出をも可能とする仕組み

【ご意見】

- がんゲノム医療の推進のためには、遺伝カウンセリング体制の整備が重要である。
- 情報の質の確保や、連結の仕組みについての検討が重要である。
- 次世代シーケンサーを用いたゲノム解析について、承認の際に一定の品質の基準が必要ではないか。
- コンソーシアムを持続的なものとするためには、国の支援だけに頼らず、参加者がそれぞれの観点で費用を負担していくシステムの構築が必要である。
- 特許等、知財に関連する契約について、手続きや経費の面についても検討が必要である。
- 腫瘍の全ゲノム解析のみでなく、リキッドバイオプシーによる早期再発診断等の開発も重要である。
- 免疫療法の有効性予測マーカーや新たな治療薬の開発について、ゲノム以外の免疫系に関する情報も収集する必要があるのではないか。